

予習・復習 IT用語

このコーナーでは、最新のものから昔から耳にしているものまで、IT関連用語を新旧取り混ぜてご紹介します。

Q

DLNA

(Digital Living Network Alliance:ディー・エル・エヌ・エー)

異なるベンダーの機器間でAV情報の相互利用を容易にするホームネットワークの標準化推進団体またはそのガイドライン

家庭内のAV機器がデジタル化し、ホームネットワークを介してパソコンやデジタル家電と相互接続するには、ベンダーの垣根を越えた互換性が必要です。このために、DLNAではネットワーク、通信プロトコル、メディアフォーマットなどのガイドラインを定めています。2004年6月にDLNAガイドライン1.0を発表し、2006年3月に拡張版(DLNA 1.5と称される)を発表しました。2009年春にDLNA 2.0を発表する予定です。2005年9月から製品間の相互接続性を保証するためのDLNA認証プログラムを開始し、相互接続性が確認された製品にはDLNA認定ロゴの表示が許可されます。2009年2月現在、ロゴ表示を許可されたDLNA認定製品は3,900件を超えています。

DLNAガイドライン1.0では、JPEG(写真)、MPEG2(動画)、リニアPCM(音楽)のメディアフォーマットが必須とされ、オプションでその他のフォーマットが実装されます。ネットワークにはイーサネットや無線LAN、通信プロトコルとしてTCP/IPなどを規定しています。DLNA 1.5からモバイル対応に拡張されました。このように、DLNAは独自規格を策定するよりも、既存の技術標準を利用して互換性を推進しています。

DLNA対応製品には、コンテンツを配信するサーバと再生するプレーヤがあります。テレビなどのプレーヤをホームネットワークに接続すると、自動的にIPアドレスが設定され、サーバのコンテンツが再生可能になります。リビングのハードディスクレコーダのコンテンツを別室のパソコンで見ることができ、パソコンに保存したデジカメ写真をテレビで見ることができます。AV機器以外には、Windows Media Player11はDLNAサーバとして、PLAYSTATION3はDLNAプレーヤとして認定されています。また、ネットワーク型ハードディスクにDLNAサーバとして認定された製品があります。

Q

ブログ (blog)

インターネット上で日記のように、時系列で情報発信を行える仕組み、またはWebサイト

インターネットの普及につれて、多くの人が個人のWebサイトで日記をつけ始めました。その後Web日記は独自の進化を遂げ、新しい形式の日記風サイトを指す言葉として「Web」と「Log」(日誌)を一語に綴った「WebLog」(=ウェブログ)という言葉が誕生しました。それが省略され、現在のように「blog」(=ブログ)と呼ばれるようになりました。

ブログは、手軽な個人の情報発信ツールとして、世相や時事問題、専門的話題に関する独自の情報や見解を掲載するという使われ方もされています。

インターネット接続事業者やコンテンツ提供を行う会社が、サービスとして提供するケースが多く、簡単な申し込みを行うだけで利用でき、無料で利用できる物も多くあります。

ブログの持つ機能として、読者が記事と写真を投稿してカレンダーや一定のカテゴリに分類して掲載できる機能が用意されています。また、別のブログにリンクを張った際にリンク先の相手にそのことを通知する「トラックバック」という機能もあり、興味や話題ごとに著者同士や著者と読者によるコミュニティが形成されています。さらには携帯電話からの投稿・閲覧機能や、RSSフィード配信による更新通知など、迅速な情報の更新を行えるように機能が拡張されています。一方で、ブログで発信されたキーワードと関連性の高い広告をブログに自動表示させる、新しい広告ビジネスモデルも登場しています。

日本国内では、情報発信の手軽さなどから、「日記サイト」として多く使われてきましたが、最近では著名人や有名芸能人が直接情報発信を行うツールとして活用され、ブログによる「口コミ」で情報が広がり、メディアが後追いで取り上げるという現象も起こっています。

しかしながら、情報発信の手軽さゆえ、無責任な発言によりトラックバックの收拾がつかず閉鎖に追い込まれることや、犯罪の引き金となった事例もあり、著者のモラルや良識が問われるケースも多いと言えます。

RSSフィード配信:更新情報などをRSS(RDF Site Summary / Rich Site Summary)形式のデータで配信することです。RSSリーダーと呼ばれる専用のソフトウェアを使って受信できますが、最近ではWebブラウザにRSSリーダーの機能が搭載されており、RSSフィードを受信する設定を行うことで更新状況がわかるため、すばやく情報収集することができます。